

広島県感染症発生動向月報

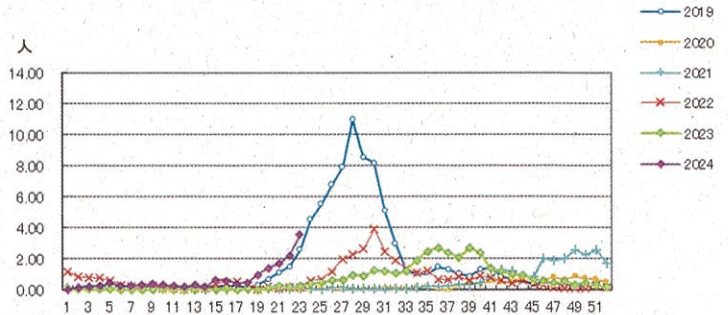
[広島県感染症予防研究調査会]

(令和6年6月解析分)

1 今月のトピックス

■ 手足口病の感染者数が増加しています！感染対策を徹底しましょう！！

手足口病は、コクサッキーウイルス A6 型やエンテロウイルス 71 型等が原因の口の中や手足などに水疱性の発疹が出る急性のウイルス感染症で手洗いの励行が基本の予防方法です。乳児・幼児を中心に、夏季に流行が見られます。現在、定点医療機関からの報告患者数が増加しており、これからの時期、特に注意が必要です。



■ 話題の劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (いわゆる人食いバクテリア) について

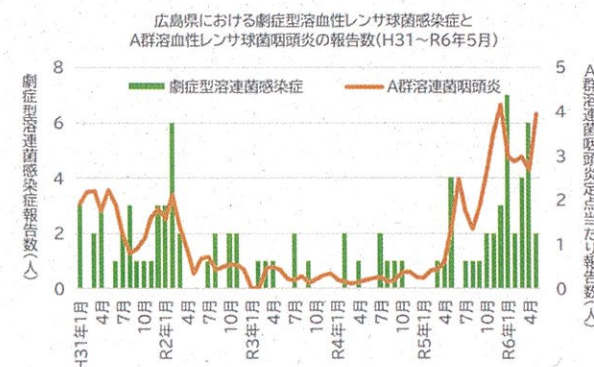
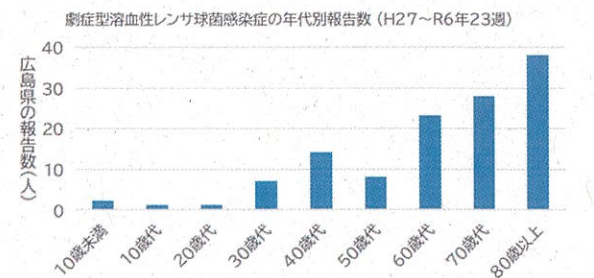
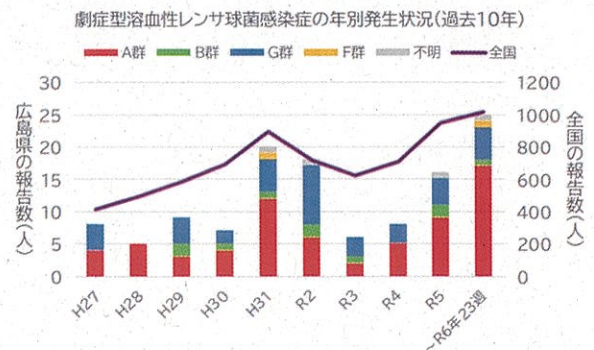
- ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、急激かつ劇的な病状の進行を特徴とする致死率の高い感染症です。
- ・通常は、レンサ球菌に感染しても無症候のことも多く、ほとんどは咽頭炎や皮膚の感染症にとどまりますが、まれに通常は細菌が存在しない組織 (血液や筋肉など) に菌が侵入することで、重篤な疾患となることがあります。
- ・主な病原体はA群溶血性レンサ球菌ですが、他にB群やG群などが原因となることもあります。
- ・子供から大人まで広範囲の年齢層に発症しますが、大人 (特に高齢者) に多いのが特徴です。
- ・増加の理由は明らかになっていませんが、経年的な増加傾向に加え、新型コロナウイルス感染症の対策緩和以降、様々な呼吸器感染症が増加する中で、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者数が増加したことも一因と考えられます。

【症状】

- ・初期症状は、咽頭痛、発熱、消化管症状 (食欲不振、吐き気、おう吐、下痢)、全身倦怠感、低血圧などの敗血症症状、筋痛などが見られます。
- ・発病から病状の進行が非常に急激かつ劇的で、発病後数十時間以内には筋肉周辺組織の壊死を起こしたり、血圧低下や多臓器不全からショック状態に陥り、発病後数十時間で死に至ることも少なくありません。
- ・四肢の疼痛、腫脹、発熱などの感染の兆候が見られる場合は、速やかに医療機関を受診してください。

【予防】

- ・飛沫感染や接触感染によって感染することから、手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染予防により、原因となる溶血性レンサ球菌に感染しないことが重要です。
- ・手足の傷口から感染する可能性があるため、傷口を汚い手で触らないなど、清潔に保つことが大切です。



2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

令和 6年 5月分(令和6年5月6日～令和6年6月2日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	66	0.14	0.08	↓	11	ヘルパンギーナ	26	0.09	0.14	↑
2	新型コロナウイルス感染症(covid-19)※1	1,064	2.29		→	12	流行性耳下腺炎	12	0.04	0.11	↗
3	RSウイルス感染症	526	1.80	0.38	↗	13	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.01	
4	咽頭結膜熱	279	0.96	0.53	↗	14	流行性角結膜炎	78	1.03	0.54	↗
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1,151	3.94	1.10	↗	15	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
6	感染性胃腸炎	1,305	4.47	4.75	→	16	無菌性髄膜炎	2	0.02	0.00	
7	水痘	64	0.22	0.14	↗	17	マイコプラズマ肺炎	13	0.15	0.02	↑
8	手足口病	458	1.57	0.38	↑	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
9	伝染性紅斑	7	0.02	0.09		19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	5	0.06	0.37	
10	突発性発しん	66	0.23	0.37	↘	※1 第19週(5/8～)からの数値です。					

(2) 定点把握(月報)五類感染症

令和 6年 5月分(5月 1日～5月 31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
20	性器クラミジア感染症	60	2.61	2.86	→	24	メチリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	84	4.00	2.81	↗
21	性器ヘルペスウイルス感染症	10	0.43	0.87	↓	25	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	7	0.33	0.14	
22	尖圭コンジローマ	17	0.74	0.74	↘	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.05	0.01	
23	淋菌感染症	19	0.83	1.16	↘	※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり) ※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。					

急増減疾患!! (定点当たり前月比2倍以上増減)

○急増疾患	手足口病	(0.47 → 1.57)
	ヘルパンギーナ	(0.04 → 0.09)
	マイコプラズマ肺炎	(0.01 → 0.15)
○急減疾患	インフルエンザ	(1.68 → 0.14)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患, 月報対象7疾患)について, 県内178の定点医療機関からの報告を集計し, 作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～11	12, 13	19～22	14～18, 23～25	
定点数	43	73	19	22	21	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五类等感染症発生状況

【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	35	結核(35)〔西部保健所(2)、西部東保健所(3)、東部保健所(10)、広島市保健所(13)、呉市保健所(2)、福山市保健所(5)〕
三類	5	腸管出血性大腸菌感染症(5)〔西部保健所(5)〕
四類	33	A型肝炎(1)〔広島市保健所(1)〕
		デング熱(1)〔福山市保健所(1)〕
		レジオネラ症(6)〔西部東保健所(1)、広島市保健所(3)、呉市保健所(1)、福山市保健所(1)〕
		重症熱性血小板減少症候群(SFTS)(3)〔西部保健所(1)、東部保健所(1)、呉市保健所(1)〕
		日本紅斑熱(22)〔西部保健所(1)、東部保健所(14)、呉市保健所(2)、福山市保健所(5)〕
五類	34	アメーバ赤痢(2)〔広島市保健所(2)〕
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症(1)〔呉市保健所(1)〕
		クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔広島市保健所(1)〕
		バンコマイシン耐性腸球菌感染症(1)〔広島市保健所(1)〕
		急性脳炎(1)〔広島市保健所(1)〕
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症(2)〔広島市保健所(2)〕
		後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)(1)〔福山市保健所(1)〕
		侵襲性肺炎球菌感染症(1)〔呉市保健所(1)〕
		水痘(入院例)(1)〔東部保健所(1)〕
		梅毒(22)〔西部保健所(1)、東部保健所(2)、北部保健所(1)、広島市保健所(12)、福山市保健所(6)〕
		百日咳(1)〔東部保健所(1)〕